

## 第5期男女共同参画のための藤井寺市行動計画（素案）に対するパブリックコメント実施結果

「第4期男女共同参画のための藤井寺市行動計画」の計画期間が今年度をもって終了することから、後継計画を策定するにあたり、検討途中の素案に対するパブリックコメントを募集しましたので、その結果と提出された意見に対する市の考え方を公表いたします。

### ○ 意見募集期間

令和7年12月23日（火）～令和8年1月26日（月）

### ○ 提出方法及び意見件数

書面 1件

オンライン窓口 3件

○意見の概要と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>28ページ 第4章 基本目標1 重点項目1 「あらゆる分野における固定的な性別役割分担意識の変革」</p>	<p>計画案では、広報紙やSNS等のメディアを活用した啓発が中心となっていますが、それだけでは不十分だと感じます。</p> <p>実際、市の育児施設やイベントに行くと、男性が長期育休を取っていることに驚かれます。これは行政の啓発が、市民の「日常の当たり前」にまで浸透していない証拠です。広報だけでなく、育児施設のスタッフや利用者の意識を直接変えるような、現場に即した具体的な働きかけを強化し、驚かれることのない社会環境を作ってほしいと考えます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。男性の育休取得が珍しいとされるご経験は、意識の変化が市民の『日常』にまで浸透していない現状を指摘するものとして、真摯に受け止めます。</p> <p>本市の役割は、広報紙やSNS、講演会等の多様な手段を通じ、市民全体に向けた継続的で幅広い啓発活動を推進することにあります。こうした啓発が浸透することで、市民一人ひとりの意識が変わり、やがて育児施設などの現場での『当たり前』の変化につながるものと考えます。</p> <p>ご意見を受けて、以下のとおり修正します。</p> <p>P28 「多様なメディアを活用し、あらゆる世代に向けた広報・啓発活動を推進します。」 ⇒ 「多様なメディアを活用するとともに、講演会や講座、イベント等のさまざまな場面において、あらゆる世代に広報・啓発活動を推進します。」</p>
<p>31ページ 第4章 基本目標2 重点項目4 「藤井寺市の男女共同参画の職場づくり」</p>	<p>市は自らがモデルとなって、市職員の男性育休取得率を75.0%まで向上させている点は評価できます。しかし、その成果が地域社会の「文化」として波及している実感が乏しいのが現状です。市役所内の数字が向上しても、一歩外に出た地域の育児現場で「男性の長期育休」が珍しがられるようでは、真の男女共同参画社会とは言えません。「市役所のモデルケース」をどのように民間や地域コミュニティの「日常」に継続させ、男性の育児参画を「驚き」から「当然」へと変えていくのか、その道筋をより明確に計画に盛り込むべきです。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。市職員の男性育休休業取得率向上の取組への評価をいただく一方、地域社会への波及が不十分であるというご指摘は、重要な課題として認識しております。</p> <p>本計画の【重点項目4】は、市役所内部の職場づくりを推進することを主眼としており、市職員の意識改革や制度充実に取り組む内容となっております。</p> <p>本市としましては、自治体職場における実績を啓発材料として活用し、市民全体へ男女共同参画の重要性を発信していくことも大事な取り組みであると考えておりますので、『市役所での事例』を紹介することで、男性の育児参画が『特別ではなく、可能なものである』という認識が市民に広がる一助となることを目指して取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>35ページ 計画推進の指標 項目4「男性職員の育児休業取得率（2週間以上）」</p>	<p>計画案では男性職員の育児休業取得率の目標を85.0%としていますが、その基準が「2週間以上」とされている点に疑問を感じます。現在、1年半の育休を取得し日々育児に専念している男性育休取得の当事者の実感として、育児に伴う心身の負担や絶え間ない労働の大変さを考えれば、わずか2週間程度の休業ではその困難さが解消されるとは到底思えません。「2週間取れば達成」とみなされる指標では、育児の責任を真に分かち合う「共育（ともそだて）」の実効性が薄れてしまいます。計画が掲げる「取得期間も重視する男性の育児休業取得促進」を形骸化させないためにも、育児の実態に伴う大変さを軽減できるよう、より長期の取得を促す指標設定や、取得期間に応じた段階的な目標管理を検討すべきです。</p>	<p>令和5年12月に閣議決定された「こども未来戦略」において、国・地方の公務員（一般職・一般行政部門常勤）に係る男性の育児休業取得率の政府目標について、「令和12年までに2週間以上の取得率85%」という目標値が掲げられていることから、本市も同様の数値を設定しているものです。</p> <p>ただ、本市におきましては、本人又は配偶者が出産した職員に対して、人事課より出産・育児と仕事の両立支援制度について個別説明を行う等の取組を確実に実施しており、当該職員の意向を踏まえつつ、期間にこだわらない育児休業の取得を推奨しているところです。</p> <p>取得の有無にとどまらず、取得期間についても重要視しておりますので、引き続き、長期取得の推進に取り組んでまいります。</p>
<p>35ページ 計画推進の指標の「5年ごとに進捗を把握する指標」</p>	<p>5. 男女共同参画や女性支援に関する市の取り組みをどれも見聞きしたことがない人の割合 現状値49.3% 目標値30.0%</p> <p>6. DVの被害にあった際に相談しなかった人の割合 現状値12.2% 目標値10.0%それぞれの目標値が、いずれも現状値より低い数値になっており、これでは5年間もの取り組みを評価する立場となりえない。</p> <p>それぞれの目標値を、いずれも抜本的に再検討して具体性のある適切な数値に修正すべきです。</p>	<p>こちらの指標は、「見聞きしたことがない人の割合」、「相談しなかった人の割合」となっており、指標を下げていくための目標となっているため、現状値よりも低い数値を目標値としています。</p>
<p>全体</p>	<p>男女共同やジェンダーの問題については、ここ4～50年の間に国や府・市などと共に女性団体やマスコミ、企業などで各々、いろいろな視点から取り組みが続けられ順々に改善されてきています。</p> <p>しかしながらこれらの問題は、人々の生活や職場、家庭など各々の立場により、永年、人やその回りの方々の生活や習慣、置かれている立場により、自分や自分の回りの考え方や習慣により、生活してきた各々のちがいにによりどれが正しいかそうでないかがわかりにくく、その人やその人を取りまくまわりの人々により、良いもの悪いものかあいまいであり、全てが良い場合や悪い場合か少しずつ異なっているため、どれが正しいかどうかがグレーなまま少しずつ良い方向に変化してきているように思います。</p> <p>このプランにおいても、その積み重ねで少しずつ変化してきているもので、必ずしもこれが正しいと言い切れなないと思います。でも永い</p>	<p>男女共同参画は、多様な価値観や立場の中で段階的に進むべきものとの貴重なご意見を踏まえ、本市は関係機関・団体とともに長期的視点に立ち、社会全体で着実に良い方向へ進むことを目指してまいります。</p>

該当箇所	意見の概要	市の考え方
	<p>年月をかけて人の考え方が少しでも良い方向に向かえばと思います。私は今年で75才になりますが100才になってもまだまだ解決できないと思いますが、少しでも良い方向に進むように願っています。</p>	
全体	<p>町内会の集会場は、建物の傷みが目立つようになり、広さや設備でも地域の活動を支えるに足りるものとは言えません。防災や防犯の拠点として考えるとなおさらです。幅広い世代が安心して集まることのできる場所としては、不適格だと感じています。こうした状況を見ると、近隣の町会と一緒に使える公民館のような施設が必要ではないかと思いません。講座や相談、気軽な交流(こども食堂・認知症カフェなど)の場としてはもちろん、災害時の避難場所や見守り活動の拠点にもなり得ますし、町内会組織の再編にもつながる可能性があります。第5期男女協働参画計画の中でも、こうした地域拠点の整備は「共同参画」の意味するところ、中心的な位置づけになるものと思います。私は「広く会議を催し、あらゆる声を取り入れる」という姿勢が今こそ必要だと感じています。</p> <p>また、市の広報紙やホームページは、必要な情報が見つけにくい。項目を順番に並べただけの無機質な印象を持ちます。地域拠点の整備とあわせて、情報の届け方についても市民の声を取り入れながら工夫していただけると、地域の安全や安心、つながりを深め、関心を寄せられるのではないかと思います。「旧来の慣習にとらわれず、時代に合わせて改める」という視点を模索すべきだと思います。</p> <p>さらに、藤井寺市には、まだ市民参加条例がありません。市民がまちづくりに関わりやすくなるよう、条例の制定も検討していただきたいとおもいます。意見を出しやすく、地域の取り組みに参加しやすい仕組みが整い、そして叶いやすくなれば、地域全体の力が自然と高まり、暮らしやすいまちづくりにもつながっていくはずです。まさに「それぞれが自分の志しを達成させ、人々がやる気をなくさないようにする」仕組みを望みます。</p> <p>多くの市民は、日中は市外で学び働き、藤井寺に戻って休息をとり、眠るという生活を送っています。その人たちが持つ力や経験が活かされないまま眠らせておくのは、とてももったいないことです。ほんのわずかな力でも出し合える仕組みと環境があれば、地域はもっと豊かになると思います。「地元から広く人材を求める」という精神が実現されるよう、そのための土台づくりをお願いしたいです。</p>	<p>ご指摘いただいた点につきましては、本計画の直接的な内容ではございませんが、すべての市民が地域活動に参画しやすい環境づくりという観点では関連する課題と考えます。</p> <p>関係部門と連携し、今後の施策検討の際の貴重なご意見として承ります。</p>